

受講番号 19004

学校名

安芸高等学校

氏名

中村 秀彦

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年普通科文系 生徒数 23 名

科目名 英語理解 単位数(授業時数) 5 時間 使用教科書名 HyperListening Plus/英語リスニングテスト第4問B

クラスの様子・特徴

国立・私立大学をはじめとして進学を希望する高3生のクラスの文系生徒で編成されたクラスであり、英語学習に対して動機づけが高く英検の受験にも熱心である。ただし、家庭学習にける時間が少なく、自主性を持って問題を解決しようとする姿勢には欠ける。

問題の確定

リスニングは時間をかけなくてもできると勘違いしているが、長めのモノローグによる聴解問題に対応できる力はない。

予備調査

A 授業の観察

教師の説明を熱心に聴き、板書も丁寧に取るなど授業態度は良好である。リスニングについては得意であるという意識を持っていたものの英検2級の問題に取り組み始めてから苦戦し始め、リスニングに対して苦手意識が徐々に出てきたようである。

B 生徒による授業評価

授業者の板書や説明方法、授業進度に対し、肯定的な意見を持つ生徒の割合はすべての項目で7割を超えている。授業に対する全体的な理解度も74%の生徒が「わかる」と答えるなど、生徒による授業評価の結果はおおむね良好である。

C 学力データ

家庭学習でリスニングに取り組んでいるのはわずか6名。しかもその6名のうち3名は単語集についているCDを聴いているだけである。その学習状況のためか、英検2級のリスニング問題のクラス平均得点は5月に11.7、7月に12.7とさほど高くない。

リサーチ・クエスト

語彙指導・音声指導にどのような工夫を施せば生徒のリスニング能力は向上するだろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

生徒の語彙力を高めれば長めのモノローグによるリスニング問題を聴いても全体の意味がつかみやすくなり、リスニングに対する苦手意識も払拭できる。そのことによりリスニング能力も向上するであろう。

実践1

「データベース4500完成英単語・熟語」を用いて1週間に1回の割合で単語テストを行い生徒の語彙力向上を図るとともに、9月と12月に語彙サイズテストを実施し、語彙数とリスニング能力の相関関係を測ることにした。もしこの仮説が正しければ語彙数が上昇するにつれリスニングテストの成績も上昇するはずである。

検証1

9月に実施した語彙サイズテスト(望月テスト)の7000語レベルで4125語であったクラスの平均語彙数が12月には4509語に増加し、その結果と比例するようにリスニングの結果も上昇した。9月に実施した英検2級のリスニング問題での正答数のクラス平均が12.5から12月には14.2へと上昇しており、語彙数とリスニング能力の間に相関関係が認められた。

仮説2

単語を耳で聴いて瞬時に意味が理解できるような訓練を施せばリスニング能力も向上するであろう。

実践2

実践1で用いた単語テストであるが、従来の空所補充式や日本語から英語、英語から日本語への変換式ではなく、教員が発音した単語を生徒が聞き取り、その語のスペルと意味を書くという形式の単語テストを採用した。単語の意味を前後関係から推測したりすることもできず、また時間的な制限もあるため、単語を聴いた瞬間に反応できなければならない。

検証2

9月以降に実施された対外模試のリスニングセクションの全国偏差値に着目、語彙数の多い生徒ほどリスニング能力が高いという結果が観察された。また、英語の音に対する生徒の意識も変化している。単語集に付属品として付いているCDのパックを全員が開封し、家庭で聴くという習慣も身に付いた。休み時間も単語テストに備えて、生徒同士が交代で単語を発音し、相手が意味を答えるというような練習を積む様子が観察された。

仮説3

音読の習慣がつけば、自分の発音を意識するようになり、ひいてはネイティブの発音に対する意識も高まるはずである。また、音読によって脳のウェルニッケ中枢(言語理解中枢)やブローカ中枢(言語運動分野)が刺激を受け、リスニング能力も向上するであろう。

実践3

英語リスニングテスト第4問B(桐原書店)を使用してリスニング問題を解かせた後、解説をして全体の意味を理解させた。生徒との質疑応答を通して、生徒がなぜ理解できなかったのか、その原因を生徒と教員で共有することもでき、有意義な活動であった。モノローグの意味を理解した後、全員で音読を行った。

検証3

音読の実践とリスニング能力の間の相関関係を検証することは難しく、数値でその効果を確認することはできなかった。2学期末に実施したアンケート調査によると、リスニング得点の高い生徒上位5人のうち家庭で音読練習に励んでいる者は2名という結果であり、やはり音読の習慣とリスニング能力向上のあいだに何らかの関係を求めるには無理があるようだ。

研究の成果

9月に実施した語彙サイズテストではクラスの平均語彙数が4125語であったのが、12月には4509語に増え、それに比例するようにリスニング能力も向上した。また、語彙数の多い生徒ほどリスニング問題で高い得点を挙げることこのリサーチからわかってきた。語彙を増やすという基本的なことを大切にする必要性を痛感できた。音を聴いて単語と意味を書くという単語テストを通して生徒の英語の発音に対する意識も高まり、アメリカ英語とイギリス英語の発音の違いやリエゾンについて興味を持つ生徒も増えてきた。

今後の授業改善の課題

AERA Englishの2008年1月号で「やっぱり単語力だ」という特集が組まれたり、「私の英単語帳を公開します」という題の書籍が刊行されたりと語彙の大切さが着目され始めている。今回は受験を目指すクラスの生徒が対象であったため何の抵抗もなく単語テストを受け入れたが、英語に対して意識付けの低いクラスであっても語彙に興味を持たせられるような工夫が必要であると感じている。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-34-1145

電子メール